

公益社団法人大気環境学会 正会員 各位

公益社団法人大気環境学会
会長 伊豆田 猛

令和3年度大気環境学会定時総会のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、依然として新型コロナウイルス感染症の感染に収束が見られませんので、第62回大気環境学会年会はオンライン開催となりました。大気環境学会定時総会は、例年、年会開催期間中に会場で開催していましたが、令和3年度の総会は、令和3年9月13日(月)の15:00~16:00にオンラインを基本とするハイブリッド型バーチャル総会で開催いたします。なお、定時総会に関する詳細は、決まり次第、お知らせいたします。

会員の皆様におかれましては、ご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

敬具

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第62回大気環境学会年会のお知らせ (第5報)

第62回大気環境学会年会を下記のとおりオンライン開催します。今後変更等が生じる場合は、年会ホームページに掲載するとともに、会員メールでご連絡いたします。多数の会員のご参加をお待ちしております。

会期：2021年9月15日(水)～17日(金)

会場：年会ポータルサイトにてオンライン開催

年会ホームページ：<http://conference.wdc-jp.com/jsae/2021/>

1. 年会参加および研究発表の流れ

流れ	期限など
1. 年会ホームページの「参加登録」から参加登録し参加費を支払う。	9月17日(金)まで。ただし、8月20日(金)までに参加登録するとプログラム集を事前発送。参加費の支払いは、郵便振替(8月20日(金)まで)かクレジットカード(9月17日(金)まで)にて
2. 発表する場合、参加登録時に演題数も登録し、参加費とあわせて発表申込金を支払う。年会ホームページ「一般発表の申込み」より指示に従って申込み。	期限：7月9日(金)【終了しました】
3. 年会ホームページ「一般発表の申込み」より指示に従って講演要旨原稿を提出。	期限：7月16日(金)
4. 年会開催期間中 年会ホームページより、年会会場(ポータルサイト)にログインし、口頭発表、ポスター発表、技術セミナー、環境機器展などに参加する。	

2. プログラム(予定)

	時	9/15(水)	9/16(木)	9/17(金)
午前	9	一般口頭発表	一般口頭発表	一般口頭発表
	10	A会場 B会場 C会場	A会場 B会場 C会場	A会場 B会場 C会場
	11			
昼休憩	12	技術セミナー	技術セミナー	技術セミナー
午後	13	ポスター発表①	授賞式・受賞講演	特別集会①
	14			
	15	ポスター発表②	公開シンポジウム	特別集会②
	16			
	17			
18		オンライン懇親会		

※9月13日(月)～10月上旬まで、オンラインで環境機器展を開催予定です。様々な最新機器の情報が展示されますので情報収集などの機会としてご参加ください。詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

3. 年会参加登録

発送を希望される方は8月20日(金)までに参加登録をお願いします。

3.1 参加登録期限

2021年9月17日(金)まで

- ・年会当日でも参加登録は可能ですが、決済はクレジットカードのみとなり、プログラム集は事後発送となります。
- ・郵便振替決済を希望される方およびプログラム集の事前

3.2 参加登録方法

- ・年会ホームページ「参加登録」の「参加登録はこちら」からご登録ください。

- ・会員の場合、参加登録に際して会員番号が必要です。会員番号は、会費の請求書通知等でご確認いただくか、学会事務局 (jsae-post@bunken.co.jp) へお問い合わせください。
- ・参加登録の際には、プログラム集の送付先情報をご入力いただきます。
- ・登録完了後、確認のメールが送信されますので内容をご確認ください。

3.3 参加費

上記の参加登録期間内に参加費のお支払いをお願いします。

参加費	
正会員	7,500円
法人会員A	10,000円
法人会員B	7,500円/人
学生会員	3,500円
賛助会員	7,500円
名誉会員	無料(招待)
非会員	10,000円

- ・お支払いは、クレジットカード、郵便振替がご利用可能です(詳細はホームページに掲載)。
- ・参加費にはプログラム集の代金が含まれています。
- ・請求書などが必要な場合には、本稿「9. お問い合わせ先など」に記載の「年会ヘルプデスク」までお問い合わせください。

3.4 参加費等の払込み後の取り消し

参加費を払込み後の取り消しはお受けできませんので、ご了承ください。

3.5 プログラム集、講演要旨集について

- ・参加登録者には、プログラム集(冊子体)を送付いたします。
- ・8月20日(金)までに参加登録いただいた方には、年会の開催に間に合うよう事前に送付いたします。これ以降に参加登録いただいた場合には事後送付となります。
- ・講演要旨集は冊子体としては作成せずPDFファイルとして作成します。参加登録者は、年会ホームページにおいて講演要旨集のPDFファイルの閲覧、およびダウンロードをできるようにいたします。

3.6 個人情報の取り扱いについて

参加登録者から取得した個人情報は、年会の運営に係わる適正な利用範囲(事務局からの問い合わせ等)に限り使用し、他にご本人の同意なく第三者に提供することはありません。

4. 一般研究発表

4.1 講演要旨原稿の提出

発表申込みをされた方には講演要旨を提出していただきます。原稿の書式は年会ホームページの「一般発表の申込み」をご参照ください。

提出期限: 2021年7月16日(金)

提出方法:

- ・年会ホームページ「一般発表の申込み」内の「一般研究発表の申込み・講演要旨原稿の提出はこちら」からログインした後、「要旨提出」ボタンから提出してください。
- ・年会ホームページでのみ原稿を受付けます。
- ・期限を過ぎて提出された原稿は受付けません。期限までに提出されなかった場合は、講演要旨集に掲載できませんのでご了承ください。

4.2 一般研究発表のプログラム

- ・口頭発表の発表枠は例年より少ない予定ですので、発表申込み数によっては口頭発表のご希望に添えない可能性があります。その場合はポスター発表に回っていただきます。
- ・口頭/ポスター発表の別、それぞれのプログラムについては、7月中旬に年会ホームページにて公開予定です。

5. 特別集会

- ・年会3日目(9月17日(金))の午後にオンラインで開催します。詳細は年会ホームページでご案内いたします。
- ・特別集会の講演要旨原稿も一般研究発表と同様に7月16日までに提出してください。提出方法は別途ご連絡いたします。

6. 分科会

- ・分科会企画は各分科会の自主企画となります。開催に必要なオンライン会議設定や当日の運営は世話人でご手配ください。
- ・開催情報は、お知らせいただければ年会ホームページに掲載いたします。
- ・分科会の講演要旨原稿も7月16日までに提出いただければ、講演要旨集に掲載いたします。学会事務局までお問い合わせください。

7. 懇親会

日時: 9月16日(木) 18:15~20:15(予定)

- ・オンラインで開催します。使用アプリなどの詳細は年会ホームページでご案内いたします。
- ・参加費は無料です。

8. 環境機器展・技術セミナー

大気環境関連の計測機器・分析機器・調査システム、環境問題への取組等の展示と説明をオンラインで行います。

〈環境機器展〉

- ・年会会場（ポータルサイト）にオンライン企業展示ブースを設けて製品等をご案内します。
- ・企業担当者との名刺交換や質疑応答も可能です。
- ・日時は年会開催期間の前後を含めた、9月13日(月)～10月上旬を予定しています。

〈技術セミナー〉

- ・各日の昼の時間帯に、環境機器展出展企業等による技術セミナーをオンラインで開催します。

9. 問い合わせ先など

年会に関する情報や不明な点については次の連絡先までお問い合わせください。

【年会プログラム等全般】

年会事務局：第62回大気環境学会年会事務局（国立環境研究所内）

Email: jsae62@nies.go.jp

【参加申込み、発表申込み等年会参加関連】

年会ヘルプデスク：株式会社 国際文献社

Email: jsae-desk@bunken.co.jp

【会員番号等の学会関連情報】

学会事務局：公益社団法人 大気環境学会 事務局（国際文献社内）

Email: jsae-post@bunken.co.jp

書評

『森の根の生態学』

編著者: 平野恭弘、野口享太郎、大橋瑞江

価 格: 4,000 円+税

出版社: 共立出版 (2020 年 12 月 25 日) A5/376 ページ

ISBN: 9784320058132

評 者: 東京農工大学 渡辺 誠



「何故この本が大気環境学会誌の書評に?」と思う読者も多いだろう。森林生態系が大気環境の保全に重要な役割を果たしていることは広く認知されているが、その主役は光合成、呼吸および蒸散が行われる葉というイメージが強い。そのため樹木の根と大気環境の関係性を想像する人は少ないかもしれない。しかし、大気を含めた森林を取り巻く物質循環において、根は極めて重要な役割を果たしている。本書によれば、光合成によって大気から取り込まれた炭素の約半分が地下部に運ばれ、根の成長や呼吸、共生菌類や根圏微生物の呼吸などに使われる。また、土壌からの CO₂ 放出 (土壌呼吸) は生態系の炭素循環の半分以上を占める大きな炭素の流れであるが、土壌呼吸の少なくとも 50% は根の呼吸が占めると言われている。一方で、根は大気環境の変化の影響を受けやすい植物器官でもある。例えば光化学オキシダントの主成分であるオゾンが植物の成長を阻害するが、特に根の成長低下が顕著であることが知られている。

このような大気環境と直接・間接的に深い関係を持つ樹木の根ではあるが、土の中に存在し見えないため、相対的に研究が立ち遅れ、植物を専門とする多くの研究者においてもブラックボックスとして取り扱われることも少なくなかった。このような状況に対して、樹木根の専門家である編者らは 10 年以上の月日をかけて本書を企画し、樹木の根を対象とする唯一の教科書を出版した。本書の目次を見てみよう。

序章 森林を支える樹木根

第 1 章 樹木の根系と分布

第 2 章 樹木根の成長

第 3 章 物質循環と樹木根

第 4 章 環境変動と樹木根

第 5 章 樹木根の発揮する減災機能

終章 樹木根と森林の生態系サービス

序章では、私たちが住む地球というシステムの中で、森林さらには樹木の根がどのように環境と関わっているのか、その位置づけが解説されている。第 1 章と第 2 章では、最新の知見を踏まえた樹木根の基礎的な内容がまとめられている。

樹木の根そのものを勉強するのに適した章である。第 3 章では森林の物質循環に着目し、水、炭素および窒素の循環における樹木根の役割が解説されている。特に炭素循環に関連した内容が充実している。森林が大気 CO₂ の吸収源であることはよく知られているが、当然ながら CO₂ の吸収だけでなく様々なプロセスから CO₂ が放出されている。本章ではそれぞれのプロセスに関する説明が丁寧に行われており、大気-陸域における炭素循環を数的に扱う (扱いたい) 研究者には有用であろう。樹木の根における水分および養分の吸収機構の解説もこの章で行われている。第 4 章では人為起源の環境変化 (大気 CO₂ およびオゾン濃度の増加、温度上昇、乾燥・滞水ストレスおよび土壌酸性化) が樹木の根の成長や機能にどのように影響するのかについて、操作実験や野外観測の事例紹介を踏まえて解説されている。私も所属する植物分科会で扱う内容と一致する部分も多く、大気環境学会員には最も馴染みがある内容かもしれない。第 5 章では表層土壌崩壊や森林災害の軽減 (減災) に着目して、根系が発揮する減災機能について樹木の倒れやすさの観点から解説されている。そして終章では森林の生態系サービス (ecosystem service, 多面的公益機能) の観点から樹木根の機能と人間圏とのかかわりについてまとめられている。

本書は基礎から応用までが網羅されており、初学者から植物の専門家まで幅広い読者にとって教科書となる書籍である。また、書籍内の相互参照が充実しているため、とりあえず興味のあるところ (例えば第 3 章や第 4 章) から読み始め、必要に応じて基礎的な内容を確認する、という読み方もやりやすい。また、原著論文の引用が充実しており、より専門的な知識を得たい人へのフォローもしっかりしている。

以上のような特長から、本書は多くの大気環境学会員にとって有益な書籍といえる。本書によって学会員が大気環境と陸域生態系の相互作用に関心を持ち、適時自らの研究に取り入れるとともに、新たな共同研究や研究分野の発展につながることを期待する。

支部だより

各支部会のホームページもご覧ください。
学会ホームページ (<http://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

近畿

令和3年度近畿支部総会・シンポジウムのお知らせ

日時: 令和3年7月30日(金) 13:30~17:00
会場: 遠隔・対面のハイブリッド方式(状況次第でオンラインのみに変更)

[遠隔] Zoom(接続方法は参加申込者に連絡)
[対面] 大阪府立大学なんばセンター(I-siteなんば)
カンファレンスルームC1(大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号南海なんば第1ビル2階)

プログラム(仮題を含む):

1. 令和3年度総会(13:30~14:20)
2. シンポジウム(14:30~17:00)
テーマ「マイクロプラスチック研究の最前線」
- 1) 大気中マイクロプラスチックの現状と課題
大河内 博氏(早稲田大学)
- 2) 深海におけるプラスチック汚染
中嶋亮太氏(海洋研究開発機構)
- 3) 水生生物におけるマイクロプラスチックの体内動態とベクター効果

大嶋雄治氏(九州大学)

4) 総合討論

参加費: 無料

定員: 遠隔参加は100名、対面参加は42名

参加申込: 申込先等は、支部HPをご覧ください。

関東

支部総会および講演会を開催しました

令和3年5月28日に、令和2年度関東支部総会および講演会をオンラインにて開催しました。総会は、委任状を含めて180名に出席いただき、令和2年度支部・部会活動報告、令和2年度中間会計報告、令和3年度予算案、そして令和3年度活動計画案に関して審議し、いずれも承認をいただきました。講演会では、「最近の気になる大気環境問題」というテーマのもと、大気中のマイクロプラスチック、石綿、災害と大気汚染、気候変動が大気質へ与える影響に関する講演がなされました。参加者は150名を超え、活発な議論が行われました。講演要旨集は、大気環境学会誌へ掲載する予定です。

分科会・研究会だより

各支部会のホームページもご覧ください。
学会ホームページ (<http://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

大気環境モデリング分科会

第62回大気環境学会年会 大気環境モデリング分科会集会 (全国環境研協議会共催)のお知らせ

テーマ: 今後の光化学オキシダント対策に向けた現状整理、課題、方向性について

日時: 2021年9月14日(火) 14:00~16:00

会場: Zoom開催

【趣旨・内容】

光化学オキシダント(Ox)については、これまでの国内対策に関わらず、わが国では依然としてその濃度レベルは高く、注意報等も発令されている状況である。併せて、気候変動によるOx濃度の上昇も示唆されている。このような背景のもと、今後の更なる対策に向けた現状整理と課題抽出について議論すべく、Oxの生成機構や低減化、そしてその将来予測手法の開発に取り組む研究者および行政担当者、最新の知見について講演いただく。

【プログラム】

- ①光化学オキシダントに関する環境省の取組について

馬島貴教(環境省)

- ②光化学オキシダント生成に関わる反応性窒素酸化物の動態と化学過程の総合的解明

猪俣 敏・谷本浩志(国立環境研究所)・松本 淳(早稲田大)・定永靖宗(大阪府大)・加藤俊吾(都立大)

- ③大気化学輸送モデルが適切なOx対策策定へ貢献するために～排出削減感度推定とその妥当性評価～

井上和也(産業技術総合研究所)

- ④対策によるオゾン濃度低減効果の裏付けと標準的な将来予測手法の開発

茶谷 聡(国立環境研究所)・嶋寺 光(大阪大)・入江仁士(千葉大)・板橋秀一(電力中央研究所)

【世話人】

櫻井達也(明星大学)、太田 聡(石川県保健環境センター)

【参加申込】

下記URLから必要事項を記入して9月6日(月)までにお申し込みください。1週間前を目途に、申込者宛にZoomのミーティングIDおよびパスコードをお知らせします。

参加費は無料です。

申し込みフォーム: <https://forms.gle/FsMXbsfVDd37LpXS7>

酸性雨分科会**第62回大気環境学会年会 酸性雨分科会集会のお知らせ**

酸性雨分科会では酸性雨研究会と共催で、反応性窒素について分科会を開催します。参加は学会員以外も可能です。

ご関心ある方は是非ご参加ください。

テーマ：反応性窒素と、その生態系影響

日時：2021年9月17日(金) 15:00~16:30 (分科会終了後、酸性雨研究会総会を開催)

会場：Zoom ミーティングによるオンライン開催
<https://zoom.us/j/93787490193?pwd=NlncmdNZ2J0U1I0QIRhQ21wY0lxQT09>

ミーティングID：937 8749 0193 / パスコード：WH2aei

・講演1

現在の反応性窒素の問題について 林 健太郎氏
 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門土壌環境管理研究領域 農業環境情報グループ
 主席研究員

・講演2

反応性窒素による森林生態系への影響 福島慶太郎氏
 京大大学生態学研究センター

・申し込み(申し込み無くても参加可能)

第62回大気環境学会酸性雨分科会参加者情報入力フォーム

<https://forms.gle/b9BfUnrSEeKqWjDc8>

植物分科会**第62回大気環境学会年会 植物分科会集会のお知らせ**

植物分科会では、第62回大気環境学会年会に合わせて、以下の講演会を開催します。参加は学会員以外も可能です。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2021年9月15日(水) 17:15~19:30

会場：Zoom ミーティングによるオンライン開催
 ミーティングアドレス等は植物分科会HPに掲載します。

植物分科会HP

<https://sites.google.com/site/taikishokubutsu/home>

講演：小池孝良氏(北海道大学大学院農学研究院)

「開放系オゾン付加施設を利用した樹林地生態系の応答」

問合せ先：玉置雅紀(国立環境研究所)

mtamaoki@nies.go.jp

賛助会員一覧（五十音順）

株式会社秋田県分析化学センター

川崎市環境局環境総合研究所

株式会社環境管理センター

紀本電子工業株式会社

柴田科学株式会社

株式会社数理計画

一般財団法人大気環境総合センター

千葉県環境生活部大気保全課

東亜ディケーケー株式会社

東京ダイレック株式会社

東京都環境局環境改善部

トヨタ自動車株式会社 法規認証部法規渉外室

日本カノマックス株式会社

一般財団法人日本環境衛生センター

東日本高速道路株式会社

富士電機株式会社 パワエレシステム インダストリー事業本部

「大気環境学会誌」編集委員

編集委員長	速水 洋	早稲田大学	中嶋 吉弘	東京農工大学
副編集委員長	上野 広行	東京都環境科学研究所	中村 篤博	日本大学
編集委員	浅川 大地	大阪市立環境科学研究センター	秦 寛夫	産業技術総合研究所
	板橋 秀一	電力中央研究所	早崎 将光	日本自動車研究所
	市川 有二郎	埼玉県環境科学国際センター	堀本 泰秀	千葉県環境研究センター
	黄瀬 佳之	山梨大学	増田 淳二	大阪市立環境科学研究センター
	堅田 元喜	キャノングローバル戦略研究所	道岡 武信	近畿大学
	勝見 尚也	石川県立大学	森川 多津子	日本自動車研究所
	亀田 貴之	京都大学	山田 裕之	東京電機大学
	川島 洋人	秋田県立大学	山本 重一	福岡県保健環境研究所
	篠原 直秀	産業技術総合研究所	弓本 桂也	九州大学応用力学研究所
	柴田 慶子	いすゞ中央研究所	和田 龍一	帝京科学大学生命環境学部
	関口 和彦	埼玉大学大学院理工学研究科	渡辺 誠	東京農工大学

複写される方に

本誌(書)に掲載された著作物を複写したい方は、著作権者から複写権の委託をうけている次の団体から許諾を受けて下さい。

学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619